

## 強者の国語・〔古文・問題編〕

大阪大学の過去問（二〇一八年・文学部以外）です。問三・四・六の和歌関連の設問は、古文の学習がまだ十分でない人には少し難しく感じるかも知れませんが、自分の古文の力を試す意味でもしっかりとチャレンジしてみてください。（目安…30分程度）

次の文章は『和泉式部日記』の一節で、宮と女との恋をめぐるやりとりが描かれている。この文章を読んで、後の問い（問一～問六）に答えなさい。

宮も、言ふかひなからず、つれづれの慰めにはおぼすに、ある人々聞こゆるやう、「このごろは、源少将げんせうしやうなむいますなる。昼もいますなり」と言へば、また、「治部卿ちぶきやうもおはすなるは」など、口々聞こゆれば、いとあはあはしうおぼされて、久しう御文もなし。

（注）小舎人こせにわらは童来わらはたり。（注）樋洗童ひすましわらは、例も語らへば、ものなど言ひて、「御文やある」と言へば、「さもあらず。ひと夜おはしましたりに、御門に車のありしを御覧せうそくじて、御消息せうそくもなきにこそはあめれ。人おはしまし通ふやうにこそ（一）聞こしめしげなれ」など言ひて去ぬ。

かくなむ言ふ、と聞こえて、いと久しう、なによかよと聞こえさすることもなく、わざと頼みきこゆることこそなけれ、時々もかくおぼし出でむほどは絶えであらむとこそ思ひつれ。ことしもこそあれ、かくけしからぬことにつけてかくおぼされぬと思ふに、身も心憂くて、なぞもかく、と嘆くほどに、御文あり。

「日ごろは、あやしき乱り心地のなやましさになむ。いつぞやも参り来て侍りしかど、折悪しうてのみ帰れば、いと人げなき心地（二）してなむ。

（一）よしやよし今はうらみじ磯に出でてこぎ離れ行くあまの小舟を」

# 強者の戦略

とあれば、<sup>(c)</sup>あさましきことどもを<sup>(e)</sup>聞こしめしたるに、<sup>(d)</sup>聞こえさせむも恥づかしけれど、このたびばかりとて、<sup>(B)</sup>袖のうらにただわがやくとしほたれて舟流したるあまところなれと聞こえさせつ。

(注1) 小舎人童 こどねりわらは 貴人のもとで、雑用をつとめる少年。

(注2) 樋洗童 ひすましわらは 下々の用事をする下女。

問一 傍線部(a)～(d)について、文脈に沿うように、主語を補って現代語訳しなさい。

問二 傍線部(A)「いと人げなき心地してなむ」とあるが、なぜそのような心地がしたのか、説明しなさい。

問三 和歌(A)で用いられている縁語をすべて答えなさい。

問四 和歌(A)を、比喻表現をふまえて、現代語訳しなさい。

問五 傍線部(イ)「あさましきことども」について、次の(1)～(2)に答えなさい。

(1) 「あさましきことども」と同じことを指す言葉を、文中から書き抜きなさい。

(2) 「あさましきことども」とは、具体的にどういうことか、説明しなさい。

問六 和歌(B)を、比喻表現をふまえて、現代語訳しなさい。

# 強者の戦略

## 〈解答〉

問一 (a) 宮はお聞きになっている様子だ

(b) 女(私)は申し上げることもなく

(c) 宮はお聞きになっているので(の)に

(d) 女(私)は返事を申し上げるのも(申し上げるならば、それも)

問二 宮が女の許を訪れた際に、既に別の男が女の許を訪れている様子であったから。

問三 うら・磯・こぎ・あま・小舟

問四 ええい仕方がない、今となっては恨むつもりはない。磯に出て漕ぎ離れ行く漁師の小舟のように、私から離れていくあなたを。

問五 (1) けしからぬこと

(2) 女の許に宮以外の男性が通っているという噂。

問六 袖の浦でただ藻塩を焼こうと潮を垂らしていて舟を流してしまった漁師のように、袖の裏にひたすら私の役目のように涙を流して、あなたに去られることとなってしまいました。

## 〈解説〉

### ○全体の読解

今回の文章では、『和泉式部日記』および和泉式部のキャラクター性に関する「文学史知識」が重要であった。『和泉式部日記』は、日記でありながら「和泉式部が直接見聞きしていない内容」も記す点に特徴があり(今回の冒頭)、また和泉式部は「多くの男性と浮名を流した男女関係に関して奔放な人物」と見なされることが多い。これらを踏まえれば、本文の「源少将」や「治部卿」に関する部分が「和泉式部の許に通っていた」と理解でき、このことに宮が嫉妬している状況も分かるだろう。逆にこれら冒頭部分の内容が理解できないと、本文全体の内容が分からないことになったと思われる。

古文学習において、「文学史知識」や「古典常識」などは文法や単語に比して軽視されがちだが、やはり読解において大きな意味を持つ場面も多い。後回しにせず、少しずつ身につけていこう。

### 問一 傍線部(a)・(d)について、文脈に沿うように、主語を補って現代語訳しなさい。

尊敬語「聞こし召す(お聞きになる)」と謙讓語「聞こえさす」を区別しつつ、文脈から主語を特定する問題。この問題を間違えた人は、「敬語に注目して主語を特定する」という古文読解の基礎事項が疎かになっている可能性が高いので、注意しよう。

### 問二 傍線部(ア)「いと人げなき心地してなむ」とあるが、なぜそのような心地がしたのか、説明しなさい。

古文単語「人氣無し」は「まともな人間の仲間にはいらない。人並みでない」の意味だが、単語として暗記しておらずとも、文脈から「不愉快だ・不本意だ」などのマイナスニュアンスの語であることは推測できる。後は傍線部直前の「いつぞやく」の内容が本文三行目の「ひと夜おはしましたりしく」と同内容であることが分かれば、解答は見える。

# 強者の戦略

問三 和歌(A)で用いられている縁語をすべて答えなさい。

「縁語」は和歌修辞法の一つで、「意味的に関連の深い語を並べて、複数の語句から一つの内容を連想させる技法」のこと。「関連が深い」かどうかはやや主観的な部分があるが、入試設問として問われる場合は今回のように「明確に関連がある」もの以外は問われにくいので、あまり厳密に考えなくともよい。また、「掛詞」と同時に用いられることが多いことも知っておこう。

なお、発句の「よし」を植物の「葦よし(アシ)」との掛詞ではないかと疑った人もいるだろうが、「葦」は河川・湿地や汽水域(淡水と海水の混じった場所)に生える植物であり、「磯」のような完全な海水部では生育し難いため、今回の和歌では「葦」とは解釈しない。

問四 和歌(A)を、**比喻表現**をふまえて、現代語訳しなさい。

冒頭の「よしや」は、形容詞「良し」+間投助詞「や」から成立した語で、「ええい、ままよ」と、「不満足な事態を放任・許容する様子」を表す。知らなかった人は、「(これで)良いだろうか、良い」という直訳と、直後の「今となつては恨まないつもりだ」という内容から、「本当は不本意だが、仕方ない」というニュアンスを推測したい。その他は、「あま(海人)あま || 漁師」さえ覚えていれば、全体の内容理解は難しくはないはず。後は文脈から、「あまの小舟」を「女(あなた)」の比喻として理解して訳に反映させよう。

なお、掛詞を訳す場合、**模範解答**のように、「**【比喻・具体的事物】**のように**【真意】**」と定型的に訳す癖を持つておくと便利なので、掛詞の訳出に苦戦した人は覚えておこう。

問五 傍線部(イ)「あさましきことども」について、次の(1)(2)に答えなさい。

- (1) 「あさましきことども」と同じことを指す言葉を、文中から書き抜きなさい。
- (2) 「あさましきことども」とは、具体的にどういうことか、説明しなさい。

まず傍線部および直後から、「宮がお聞きになった」「ひどい内容」と考え、「女に関する悪い噂」であろうと推測する。(1)は、

# 強者の戦略

本文から上記と同じ内容の部分を探し、(2)は「ひどい内容」をより具体的に説明しよう。

問六 和歌(B)を、**比喩表現をふまえて、現代語訳しなさい。**

「やく」「しほ」を見て、古典常識「藻塩を焼く」を意味すると理解できれば難しい和歌ではない。まず【比喩・具体的事物】に当たる「袖の浦(出羽国にある歌枕・地名)」「焼く」「塩(藻塩)」などを整理し、それぞれが「袖の裏」「私の役(役目・唯一の仕事)」「潮垂る」との掛詞であることを見抜こう。後は「舟を流す」ことが「宮から離れてしまう・宮に捨てられる」ことであると分かれば、問四と同じように【比喩・具体的事物】のように【真意】という形で訳出すればよい。

## 〈現代語訳〉

宮も、(女について)つまらなくはなく、退屈の慰めに(は良いだろう)とはお思いになるが、ある人々(宮の周囲の人々)が申し上げるには、「近頃は、(女のもとに)源少将がいらつしやる(＝女の浮気を示唆している)そうだ。昼もいらつしやるそうだ」と言うと、また、「(女のもとに)治部卿もお出でになるそうだよ」など、口々に申し上げるので、(宮は女について)とても軽薄なようにお思いになって、長い間お手紙もない。

(女のもとに、宮に仕える)小舎人童がやって来た。樋洗童が、いつも親しく話をするので、何かを言って、「(宮からの)お手紙はあるか」と言うと、「そうでもない。(宮が)ある夜にいらつしやったが、(女の家の)御門のところに車があったのをご覧になって、お手紙もないのであるようだ。(宮以外の)人が通いなさるように(宮は)お聞きになっている様子だ」などと言って立ち去る。

(小舎人童が)このように言う、と(樋洗童が女に)申し上げて、とても長い間、あれやこれやと申し上げることもなく、わざわざお願い申し上げることもないが、時々でもこうして(私のことを)思い出してくださるうちは(一人の仲が)絶えることはないだろうと(私は)

# 強者の戦略

思っていた。こともあるように、このように(私に関する)ひどいこと(噂)によってこのように(私を疎ましく)自然とお思いになったと思うと、わが身も辛くて、なぜこのように(なってしまったのか)、と嘆くうちに、お手紙がある。

「近頃は、奇妙な体調の悪さで気分がすぐれないために(訪れられなかった)。いつかも参上しましたが、タイミングが悪いことばかりで返るので、とても人並みに扱われない気持ちが出て。

ええい仕方がない、今となっては恨むつもりはない。磯に出て漕ぎ離れ行く漁師の小舟のように、私から離れていくあなたを」とあるので、驚き呆れたことをお聞きになっているので、返事を申し上げるのも恥ずかしいが、今回だけはとあって、

袖の浦でただ藻塩を焼こうと潮を垂らして舟を流してしまった漁師のように、袖の裏にひたすら私の役目のように涙を流して、あなたに去られることとなってしまいました。

と申し上げた。